講　演　録

# S-KYT研修の重要性について

S-KYT指導員　谷　亜生氏

谷指導員の講演は、画像を用い、実技を取り入れたとてもわかりやすいものでした。

講演は、S-KYT研修でおなじみの「イス押し込みヨシ！」の指差し呼称の実技から始まりました。

受講者の皆さんは、初めは小さな声で恥ずかしそうにしておられましたが、谷指導員のご指導で大きな声が出るようになりました。

出席者からは「S-KYT研修がなぜ必要なのか良くわかった」、「当市の消防団でも開催したい」といった声が多数寄せられました。

その要旨を以下にご紹介いたします。

・消防団員の公務災害は、年平均で1,300件を超え、そのうち殉職者は最近の５年間で36名を数える現状にある。

・消防団員には家族があり、職場がある。ひとりひとりの消防団員はそれぞれの場所でかけがえのない存在であり、尊重されなければならない。そのためには、公務災害を減らすのではなくゼロにすることが必要である。

講演中の谷氏

・S-KYT研修は、事故が起こってから対策を講じる「墓標安全」ではなく、事故が起こる前に対策を講じる「予防安全」を目指すもので安全を先取りする研修である。
・具体的には、６名程度のグループで消防作業をしているイラストを見て、その作業にどのような危険が存在しているかを指摘し、話し合い、その危険を回避するために注意すべき点をみんなで考えて明確にし、その注意すべき点を指差し呼称や指差し唱和することで、作業の安全性を高めることを目的にした研修である。
・指差し呼称は、作業を安全、確実に行うために非常に重要であり、それを行う事で６倍の効果があるというデータがある。また、指差し唱和やタッチアンドコールでチームとしての一体感と集中力が高まる。
・消防団員の殉職者の中には、脳疾患や循環器疾患を発症した例が少なくない。そのため、S-KYT研修では、活動の中でリーダーとなる団員が、他の団員の健康チェックをすることもカリキュラムに盛り込まれている。
・基金の推進している公務災害防止研修の開催数は年々増加しているが、全国の消防団数から見ると、まだまだ十分とは言えない。
・市町村は消防団員に対する安全配慮義務を負っており、消防団事務担当者は、消防団員の公務災害を防ぐために、公務災害防止研修を消防団員に受講させるべきである。

## プロフイール

谷 亜生氏（たに・つぐお）
京都市消防局 OB
　平成18年度に当基金の S-KYT指導員となり、以来、公務災害防止研修講師として全国の消防団を精力的に指導している。

イス押し込みヨシ！

タッチアンドコールの実技